

令和4年度病害虫発生予報第3号（7月予報）概要表

令和4年6月24日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名		予報内容	
		発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>			
(1)	いもち病（葉いもち）		やや少
(2)	紋枯病		並
(3)	縞葉枯病		並
(4)	セジロウンカ		並
(5)	ヒメトビウンカ		並
(6)	ツマグロヨコバイ		やや多
(7)	斑点米カメムシ類		並
(8)	フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	やや早	やや少
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>			
(1)	いもち病（葉いもち）		やや少
(2)	縞葉枯病		並
(3)	セジロウンカ		並
(4)	ヒメトビウンカ		並
(5)	ツマグロヨコバイ		並
(6)	フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	やや早	やや少
(7)	イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第2世代幼虫）	並	並*
<u>3 なし</u>			
(1)	黒星病		並
(2)	ハダニ類		やや多
(3)	アブラムシ類		並
(4)	カメムシ類		並
(5)	シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名		予報内容	
		発生時期	発生量
<u>4 なす（露地栽培）</u>			
(1)	褐色腐敗病		並
(2)	オオタバコガ		やや多
(3)	ハダニ類		多
(4)	アザミウマ類		多
<u>5 ねぎ</u>			
(1)	黒斑病		多
(2)	軟腐病		並※
(3)	ネギアザミウマ		多
<u>6 いちご（苗）</u>			
(1)	炭疽病		並
(2)	ハダニ類		多
<u>7 茶</u>			
(1)	炭疽病		やや多
(2)	チャハマキ（第2世代幼虫）	遅	並
(3)	チャノコカクモンハマキ（第2世代幼虫）	やや遅	並
(4)	チャノホソガ（第2世代幼虫）		並
(5)	チャノミドリヒメヨコバイ		並
(6)	カンザワハダニ		並
(7)	チャノキイロアザミウマ		多
(8)	クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）	やや早	

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

(令和4年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和4年度病害虫発生予報第3号（7月予報）

令和4年6月24日
埼玉県病害虫防除所

1 水稲（5月中旬までの移植）(1/2)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	やや少	○6月中旬の発生量：散見 □5月1日～6月22日までの感染好適日の出現日数：6日（平年：20.1日）（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂で軟弱な稲体となり、発生を助長するため、適正な追肥を実施する。 ・病害虫防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適日日数（ 参照1 ）」を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
紋枯病	並	○6月中旬の発生量：－ □前年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生を助長するため、適正な追肥を実施する。
縞葉枯病	並	○6月中旬の発生量：－ □県予察ほ場での発生量：並（±） □7月のヒメトビウンカの発生量は平年並と予想（±）	・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照4 ）を参考に防除対策を実施する。
ヒメトビウンカ	並	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照4 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月22日までの飛来予測日数：0日（平年3.1日）（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・病害虫防除所が発表する「ウンカ飛来予測（ 参照2 ）」を確認し、飛来予測日が多い場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 水稻（5月中旬までの移植）(2/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ツマグロ ヨコバイ	やや多	○6月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・本田周辺のイネ科雑草で増殖するため、通年で雑草管理を実施する。 ・出穂期前後2週間の除草作業は、本田への侵入を助長するため実施しない。
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：－ ■6月22日現在の有効積算温度による第2世代成虫の発蛾最盛日は、7月10日と予測（平年7月13日）（+） □フェロモントラップによる誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・病虫害防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にして、第3世代幼虫の防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。 			

参照1：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照2：気象予測データによるウンカ飛来予測状況（トビイロウンカ、セジロウンカ）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

参照4：病虫害診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）(1/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	やや少	○6月中旬の発生量：－ □一部地域で苗いもちが散見（＋） □5月1日～6月22日までの感染好適日の出現日数：6日（平年：20.1日）（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内の余り苗は感染源となるため、早めに撤去する。 ・病虫害防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適日日数（参照1）」を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
縞葉枯病	並	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：並（±） □7月のヒメトビウンカの発生量は平年並と予想（±）	<ul style="list-style-type: none"> ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照4）を参考に防除対策を実施する。
ヒメトビウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬までの移植地域での発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照4）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月22日までの飛来予測日：0日（平年：3.1）（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・病虫害防除所が発表する「ウンカ飛来予測（参照2）」を確認し、飛来予測日が多い場合はほ場をよく見回り、早期発見に努める。
ツマグロヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：－ □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）(2/2)

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：－ ■6月22日現在の有効積算温度による第2世代成虫の発蛾最盛日は、7月10日と予測（平年7月13日）（＋） □フェロモントラップによる誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・病害虫防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にして、第3世代幼虫の防除を実施する。
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並*	○6月中旬の発生量：－ ■6月22日現在の有効積算温度による第2世代幼虫の孵化最盛日は、7月27日と予測（平年7月25日）（±） □県予察ほ場での第1世代幼虫の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・病害虫防除所が7月初旬に発表予定の「イネツトムシ発育予測」を参考にして、第2世代幼虫の防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照1：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照2：気象予測データによるウンカ飛来予測状況（トビイロウンカ、セジロウンカ）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

参照4：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 なし

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	・発病葉、発病果実及び発病新梢の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。 ・薬剤防除に当たっては、適正な散布量を確保し散布むらの無いよう注意する。 ・「幸水」は感受性が高まる時期なので、発生に注意する。
ハダニ類	やや多	○6月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・高温期は増殖が早いので、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。
アブラムシ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	
カメムシ類	並	○6月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表のフェロモントラップ等のデータ（参照3）を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイムシ類 (ナシメシクイ)	並	○6月中旬の発生量：－ □第1世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・防除所発表のフェロモントラップデータ（参照3）を参考に、第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を発生初期から使用する。なし園の周囲を含め広範囲で使用する事が効果的である。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雹により葉や枝が損傷した場合、黒星病や疫病の発生が懸念されるので、殺菌剤を散布する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なす（露地栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○6月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	やや多	○6月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・防除所発表のフェロモントラップデータ（ 参照3 ）を参考に、適期防除を実施する。
ハダニ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除する。
アザミウマ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	
【共通注意事項】 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

5 ねぎ

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	
軟腐病	並※	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・多肥栽培では、発生が助長されるので注意する。 ・多雨が予想される場合は、明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
ネギアザミウマ	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・定植時の粒剤等により初期防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りがない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・高温期は増殖が早いので、こまめに発生状況を確認する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 茶 (1/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	やや多	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：多(+) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(±)	・降雨日が多い時は感染しやすくなる。 ・「さやまかおり」、「やぶきた」、「こまかげ」、「ふくみどり」は発生しやすい品種なので、二番茶残葉の発病に特に注意する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構の同じ剤の連用を避ける。
チャハマキ (第2世代幼虫)	発生時期遅 発生量並	○6月中旬の発生量：並 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日：6月17日(平年比：6.5日遅い)(-) □県予察ほ場での第1世代成虫の誘殺数：少(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・防除所発表のフェロモントラップデータ(参照3)を参考に若齢幼虫を対象に防除を実施する。
チャノココク モンハマキ (第2世代幼虫)	発生時期やや遅 発生量並	○6月中旬の発生量：並 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日：6月22日(平年比：3.7日遅い)(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・防除所発表のフェロモントラップデータ(参照3)を参考に若齢幼虫を対象に防除を実施する。
チャノホソガ (第2世代幼虫)	並	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：少(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・防除所発表のフェロモントラップデータ(参照3)を参考に、三角葉巻が目立つ前に早めに薬剤による防除を実施する。
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：少(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照4)を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。
カンザワハダニ	並	○6月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場での発生量：少(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・薬剤散布を実施する際は、葉裏に十分かかるようにし、抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照4)を参考に防除対策を実施する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 茶 (2/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノキイロ アザミウマ	多	○6月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場での発生量：多 (+) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照4)を参考に防除対策を実施する。
クワシロ カイガラムシ (第2世代幼虫)	発生時期 やや早	○6月中旬の発生量：並 ■気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(+) ■6月22日現在、有効積算温度シミュレーション(アメダス地点：青梅)による第2世代幼虫ふ化最盛日は、7月20日と予測される(平年7月24日)。(+)	・防除適期は、ふ化幼虫期を中心とした短期間なので、計画的に防除を実施する。

参照3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

参照4：病虫害診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(+)は助長要因、(-)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参照 HP)

参照 1：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照 2：気象予測データによるウンカ飛来予測状況（トビイロウンカ、セジロウンカ）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

参照 3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和4年5月1日～8月31日)

2 気象概要 1 か月予報 (令和4年6月23日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

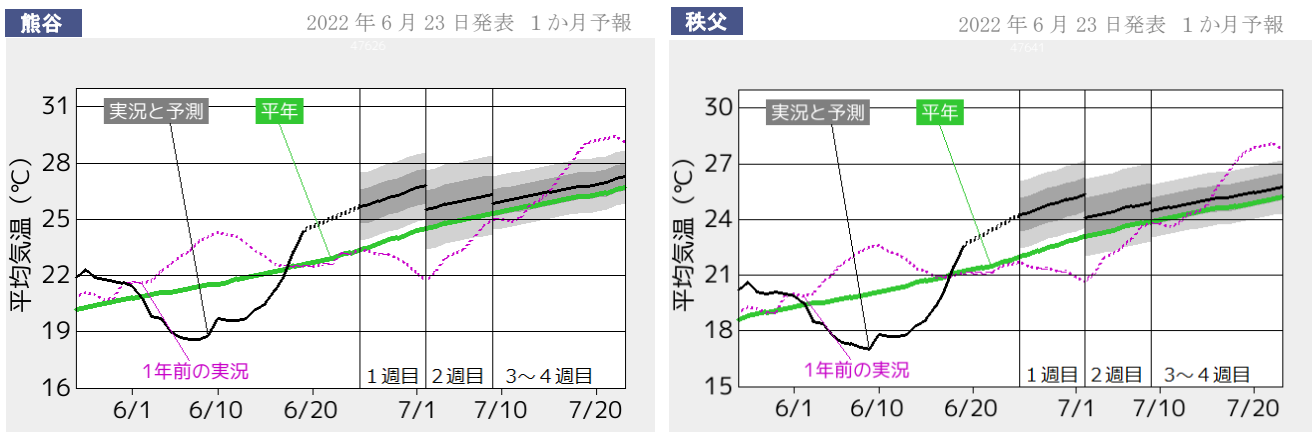
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- ・前線や湿った空気の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気 温】 関東甲信地方	10	20	70
【降 水 量】 関東甲信地方	40	40	20
【日照時間】 関東甲信地方	20	30	50

凡例： 低い (少ない) 平年並 高い (多い)

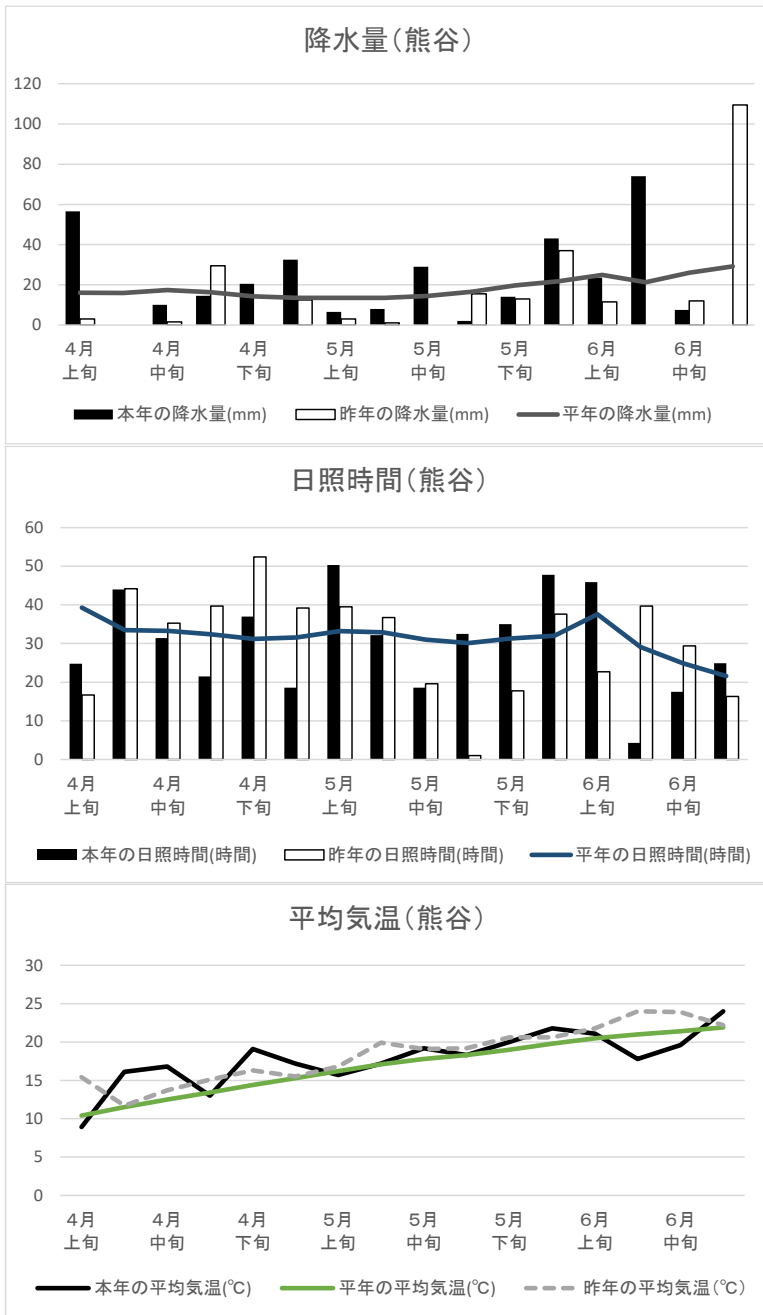
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)**
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)**
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)**
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)**
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の降水量、日照時間、平均気温



☆手洗いでウイルス対策！！☆

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、
農作業開始前後には、手洗い、手指の消毒を徹底しましょう。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/tearaiurusutaisaku.html>

問い合わせ先
 埼玉県病害虫防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>